

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2011年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、
1975年より、アジアを中心に貧困の中で
暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の
自立を目指した活動をしています



子守りをする
ネパールの子ども



一緒に下校する
スリランカの子どもたち



放課後、友だちと遊ぶ
フィリピンの子どもたち



理事長挨拶

東日本大震災が発生してから1年4ヶ月が経過します。被災地では、未だに大勢の方々が仮設住宅などでの不自由な生活を余儀なくされています。また、福島原子力発電所事故の影響により、住み慣れた土地を離れて生活されている方々も多くいらっしゃいます。今もなお困難な生活をされている方々をおぼえ、改めて一日も早い生活の立て直しを心からお祈り申し上げます。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2011年度、長期化する厳しい経済状況の中で開発途上国での支援活動に携わりつつ、東日本大震災で被災された方々に対する緊急・復興支援活動をおこないました。それは、予想した以上に、難しく、かつ厳しい経験でした。しかし、途上国での開発支援の規模をほぼ維持しつつ2011年度を締めくることができましたことに安堵をおぼえるとともに、ご支援くださる皆様から格別のご理解と大きなご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町 正信

私は、3月末、世界各国のチャイルド・ファンド・アライアンス加盟国による献金によりチャイルド・ファンド・ジャパンが建設を支援した岩手県大船渡市内の仮設保育室の完成式典に出席しました。式の中で、保育所の子どもたちが『空より高く*』という歌を歌ってくれました。「人は空より高い心をもっている、どんな空より高い心をもっている、だからもうだめだなんて、あきらめないで、涙をふいて歌ってごらん」という子どもたちの元気一杯の声を聞きながら、神様の愛してやまない子どもたち一人ひとりの成長を祈ると共に、「すべての子どもたちに開かれた未来を約束する国際社会の形成」という、この団体が掲げるビジョンの重要性を改めて思いました。このビジョンの実現に向かってさらに力強く歩めるよう、皆様には引き続き一層のご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

*「空より高く」 作詞:新沢としひこ 作曲:中川ひろたか

ChildFund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン(目標)、
ミッション(使命)に
基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることに活動を始めました。時代が変り、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション(使命)

生かす生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

目次

理事長挨拶 理事長 深町 正信	2
チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要 支援者数と支援チャイルド数の3ヵ年推移	3
支援事業 2011年度の概要	4-5
スポンサーシップ・プログラム	6-7
支援プロジェクト-フィリピン、ネパール	8-9
国内の活動	10-11
2011年度会計報告	12-14
東日本大震災緊急・復興支援事業	15-18
組織図・役員名簿	19
チャイルド・ファンド・アライアンスについて	20

チャイルド・ファンド・ジャパン事業概要

1.地域開発支援事業(P6-9)

●スポンサーシップ・プログラム(P6-7)

スポンサーとチャイルドとの一対一のつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う事業です。

2011年度は、フィリピンで19カ所、スリランカで2カ所、ネパールで1カ所の協力センターに対して支援を行いました。

●支援プロジェクト(P8-9)

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事業です。

2011年度はフィリピンで3件、ネパールで3件のプロジェクトを実施しました。



2.緊急・復興支援事業(P9,P15-18)

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援する事業です。

2011年度は、フィリピンで台風被害への支援事業と、東日本大震災への緊急・復興支援事業を実施しました。



3.広報・啓発・提言事業(P10-11)

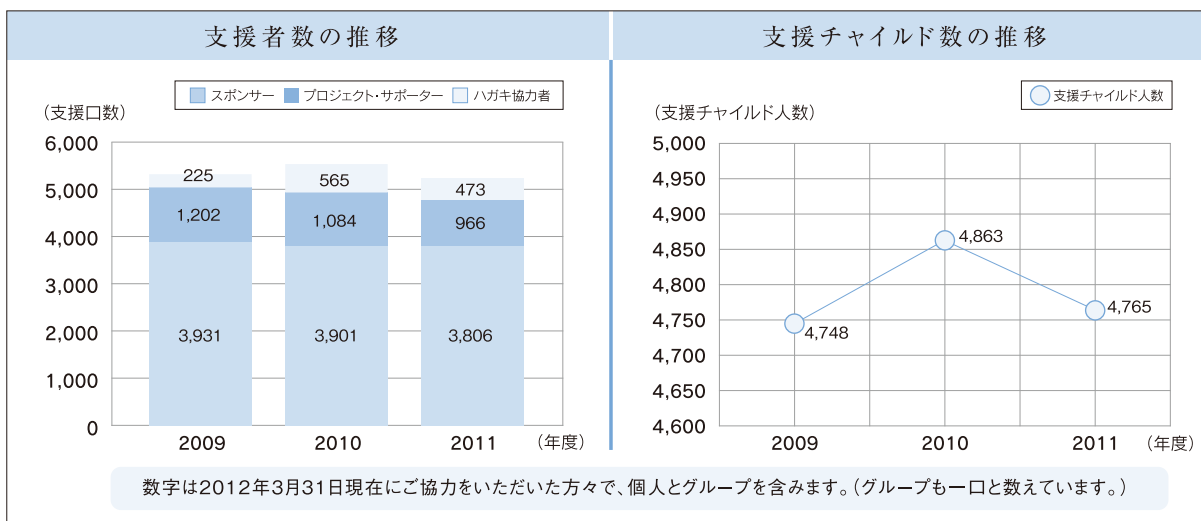
国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。

「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーンの実施をはじめ、イベントへの出展を行いました。また、JANIC(国際協力NGOセンター)などのネットワーク組織に参加し、国内のNGOとの連携を図りました。



支援者と支援チャイルド数の3カ年推移

2011年度は計5,245名の方がスポンサー、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者として活動を支援してくださいました。スポンサー新規入会者数は183名(前年比55名減)、退会者数は298名(前年比2名増)となり、東日本大震災を受け、非常に厳しい状況でした。その結果、支援チャイルドは、約100名の減員となりました。ネパールでのスポンサーシップ事業は2年目にはいり、支援くださる250名のスポンサーの皆様には1年間のチャイルドの成長記録をお送りすることができました。皆様の温かいご支援を今後ともよろしくお願いいたします。*数字はいずれも2012年3月31日時点

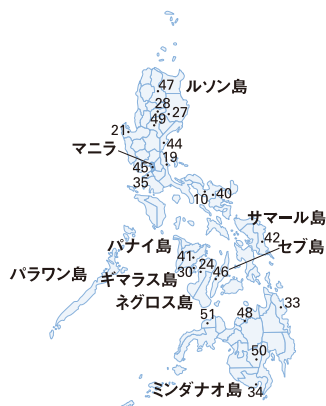


支援事業2011年度の概要

《フィリピン since 1975》

フィリピンでは19カ所の協力センターで、貧困世帯に属する4,172人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。その他に3つの支援プロジェクトと緊急支援事業を1つ実施しました。

*数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



フィリピン事務所所長
リナ・ムンサヤック

2011年度の総括

2011年度の活動内容

スポンサーシップ・プログラムにより、チャイルドたちには必要なサポートが提供され、その結果、勉強をする習慣が身につきました。また、支援プロジェクトである「読書に親しむプロジェクト」を通して2,000人近くの子供たちが読書の楽しさを味わいました。このような努力の成果として、小学校とハイスクールを修了するチャイルドたちの割合は、全国平均に比べ小学校で10ポイント高い84%、ハイスクールでは20ポイント高い92%になりました。

補食プログラムと家庭菜園の普及プログラムによりチャイルドたちの栄養状態も改善し、栄養不良の子どもの割合は全国平均が30%のところ、チャイルドたちは8%にとどまっています。

スポンサーシップ・プログラムに加え、子どもが読書に親しむプロジェクト、パラワン少数民族生活改善プロジェクトと協同組合強化支援プロジェクトを支援しました。

次年度に向けた課題

2012年度からは、公教育が10年から12年に延長される予定です。これは教育分野で長年の懸案でした。その準備をすること、さらにきめ細かいプログラムの実施、そして青年期のチャイルド向けに技術訓練の機会を増やすことを目指します。

チャイルドの健康面、栄養面では、行政と協働しつつ、家庭における栄養摂取の改善を目指します。また地域全体の生活改善に向けて収入向上のための起業セミナー、地域の緊急時の対応計画の策定などを実施していきます。

Regina Munsayac
MA REGINA M. MUNSAIYAC
Country Office Director

《ネパール since 1995》

ネパールではスポンサーシップ・プログラムは1カ所の協力センターで、貧困世帯に属する270人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。その他に3つの支援プロジェクトを実施しました。

*数字はチャイルド・ファンド・ジャパンの協力センター番号です。



ネパール事務所所長
田中真理子

2011年度の総括

昨年度をふりかえって

ネパールは、王政が廃止されて3年経ちましたが、未だ新憲法は発布されず、政治が安定しない状況が続いています。ネパール事務所は、ネパール政府と今後5年間の事業の継続に必要な事業合意書を更新しました。

2011年度の活動内容

今年度は270名のチャイルドたちと家族の生活改善のための活動を行いました。村々でチャイルドと親のそれぞれの月例集会を開き、成績表の見方、差別、親の責任、身だしなみなどについて話し合いました。チャイルドには制服、バッグ、サンダル、文房具などを支給しました。学習が遅れている243名のチャイルドには補習授業を実施し、昨年度より良い成績で進級したチャイルドが増えました。一方、チャイルド全体の進級率は、昨年度の94%から91%に下がりました。これはセンターが生徒を正當に評価するように学校と協議したことが大きな要因です。また、身だしなみが良くなり、自信をもって話せるようになったチャイルド、家にトイレを作ったり、教師に子どもの相談をする親が増えました。

次年度に向けた課題

学校を中退して働くことを決めたり、結婚を理由に支援を離れたチャイルドが7名います。センターのスタッフが、個々のチャイルドの問題を正確に把握し、適切かつ迅速に対処する力をつけることが急務です。

支援プロジェクト

15年間支援をした「オカドゥンガ地域病院プロジェクト」は、病院の運営能力が向上し、病院の収入と、収入に占める診療報酬の割合が増加していることから、計画通り今年度で支援を終了しました。「故細野雅央様からのご寄付による教育支援プロジェクト」は、地域の子どもの就学率が目標以上に改善され支援を終了しました。「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」は、新たな5カ年計画に基づき、対象校を16校に拡大して活動を開始しました。課題は多く、支援を必要とする子どもはまだ大勢います。今後とも皆様からのご支援をくださいますよう、よろしくお願ひいたします。

田中真理子

《スリランカ since 2006》

スリランカでは2カ所の協力センターで、貧困世帯に属する323人の子どもたちや家族の生活改善に協力しました。

*数字はチャイルド・ファンド・日本の協力センター番号です。



チャイルド・ファンド・スリランカ事務所所長代理
ポンナムパラム・ジェガナタン

2011年度の総括

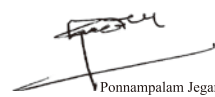
スリランカの情勢

人口約2,200万人のスリランカは、貧困国に属しています。国民のほとんどは農村部に暮らしており、農業に従事しています。5歳以下の子どもたちの22%が栄養不良の状態です。かつての内戦地域が厳しい状況です。貧困に起因する栄養不良は、子どもたちへの夢と希望の実現を阻害しています。さらに、デング熱や下痢、感染症などの疾病や洪水、土砂崩れ、干ばつなどの天災が子どもたちの教育、栄養、健康に影を落としています。スリランカの貧困地域は、乾燥地域、紅茶農園の地域、そしてかつての内戦地域です。それらの地域に暮らす子どもたちや人々は日ごと、生存を脅かされる生活を余儀なくされています。

2011年度の活動内容

チャイルド・ファンド・スリランカがチャイルド・ファンド・ジャパンを含むチャイルド・ファンド・アライアンスからの支援により実施しているプログラムは、子どもたちが成長するうえで大切な役割を果たしています。全国で約2万名のチャイルドが支援を受けており、チャイルドの家族、地域の人々も含めると23万人を超える子どもたち、人々がプログラムに参加しています。チャイルド・ファンド・スリランカは貧困を軽減し、保健、水、幼児教育、学校教育、青年期の能力開発のために以下の3つのプログラムを実施しました。1. 幼児の発達とケア、2. 質の高い教育、3. 青年へのリーダーシップと技術訓練です。

チャイルド・ファンド・ジャパンを通じた日本のスポンサーの方々からの大きなご支援にお礼を申し上げます。皆様の温かいご支援でスリランカの子どもたち、その家族、そして地域の人々の生活状況が向上しております。チャイルド・ファンド・ジャパンとともに子どもたちのために働くことは、私たちにとって大きな喜びです。これからも、日本の皆様とともに子どもたちのためのプログラムを実施してまいりますと願っております。


Ponnampalam Jeganathan
Acting National Director
ChildFund Sri Lanka

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、スポンサーとチャイルドとのつながりを通して、子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う事業です。このプログラムは、子どもの成長、家族の生活改善、住民主体の組織づくりなどを支援します。貧困の中で暮らす子どもが元気に成長し、家族や地域の人々が自分たちの力で問題を解決する力を身につけていきます。2011年度はフィリピン、ネパール、スリランカで4,765名のチャイルドを支援しました。

スポンサーシップ・プログラムの目指す2つのゴール

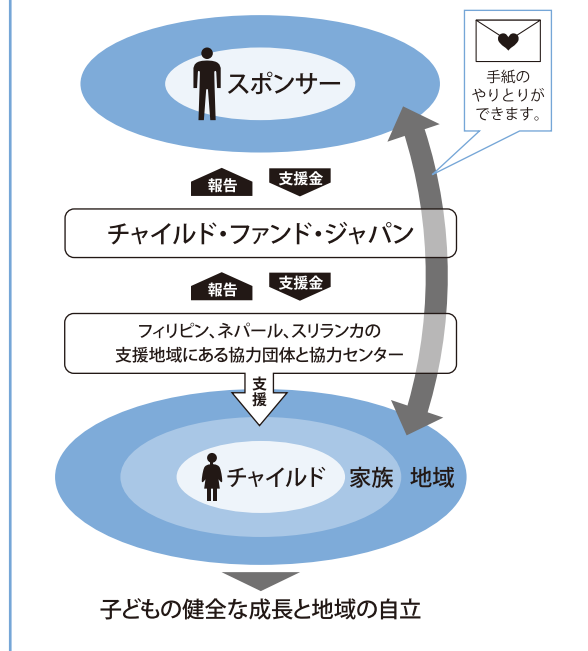
ゴール1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。チャイルドには担当のスタッフがつき、家庭や学校訪問をとおして日々の成長を見守っています。チャイルド・ファンド・ジャパンの協力センターでは、演劇や絵画を活動に取り入れたり、子どもの権利について学び、自分らしさを伸ばしながら内面を育てることができるよう取り組んでいます。

ゴール2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、事業資金の融資などの支援をしています。人々が協力して自らの問題を解決していくことができるよう、中・長期的視野にたったプログラムを実施しています。支援を開始した1975年から2011年度末までに、フィリピン全土で計34カ所の協力センターが自立を達成しました。

スポンサーシップ・プログラムのしくみ



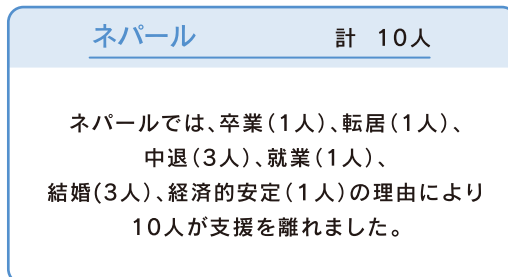
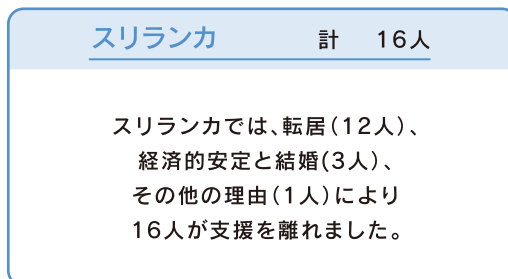
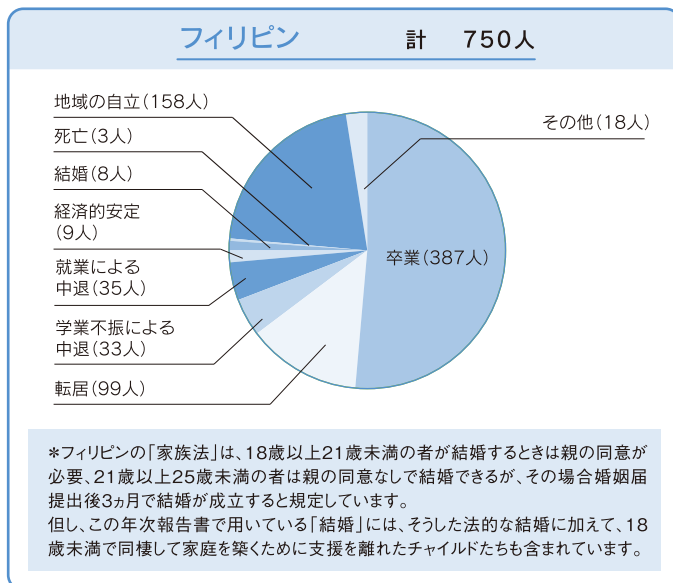
支援重点分野 1.子どもの成長 2.家族の生活改善 3.住民主体の組織作り

2011年度支援チャイルドデータ

支援チャイルド数



チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2011年度)



《フィリピン・ネパール・スリランカ》



2011年度 チャイルド・ファンド・ジャパン協力センター 一覧

フィリピン協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数*1
10	サンタ・ラファエラ・マリア・ファミリー・サービス・センター Santa Rafaela Maria Family Service Center	聖心侍女修道会	1983.08.01	300名
19	インファンタ・コミュニティ・デベロップメント・センター Infanta Community Development Center	インファンタ・インテグレートド・コミュニティ・デベロップメント・アシスタンス (NGO)	1988.09.01	280名
24	マザー・リタ・バルセロ・コミュニティ・センター Mother Rita Barcelo Community Center	アウグスチノ宣教会	1991.12.01	200名
27	パヌルヤン・センター Panuluyan Center	ラサレット・パナマ・財団	1995.02.01	400名
28	カタグワン・センター Kataguan Center	セントメリー・マグダレン小教区	1995.02.01	220名
30	コミュニティ・パートナーシップ・フォー・インテグレートド・チャイルド・デベロップメント・センター Community Partnership for Integrated Child Development Center	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所	1996.01.03	262名
34	NDBRCFI・ラネスティン・デベロップメント・センター NDBRCFI LANESTIN Development Center	ノートルダム・ビジネス・リソース・センター財団	1996.03.18	350名
35	セイクレッド・ハート・オブ・ジーザス・ファミリー・センター Sacred Heart of Jesus Family Center	カノッサ修道会	1996.08.01	300名
40	パトング・トライバル・コミュニティ・デベロップメント・センター Patong Tribal Community Development Center	カサレス・ソーシャル・アクション財団	1997.11.01	200名
41	インマヌエル・ルーラル・デベロップメント・センター Immanuel Rural Development Center	ハニワイ・カルバリオ・コミュニティ・センター (NGO)	1998.11.01	350名
42	マザー・イグナシア・ナショナル・ソーシャル・アクション・センター Mother Ignacia National Social Action Center	レリジャス・オブ・バージン・メアリー修道会	1999.01.01	250名
44	セント・フランシス・センター・インテグレートド・エリア・デベロップメント・フォー・オーロラ Saint Francis Center-Integrated Area Development for Aurora	オーロラ州総合地域開発協会 (NGO)	2001.08.01	250名
45*2	オールド・サンタ・メサ・センター Old Sta. Mesa Center	アテネオ大学付属機関センター・フォー・コミュニティ・サービス	2001.11.15	162名
46	アワ・レイディ・オブ・ナザレス・チルドレン・センター Our Lady of Nazareth Children Center	メアリー財団	2002.05.15	150名
47	タブク・ルミン・アワ・アン・センター Tabuk Lumin-awa-an Center	タブク代牧区	2003.01.01	93名
48	ペドロ・カルングソッド・ピース・センター Pedro Calungsod P.E.A.C.E. Center	セイビア大学アテネオ・デ・カガヤン	2003.01.01	250名
49	アルダースゲート・クリスチャン・チャイルド・センター Aldersgate Christian Child Center	アルダースゲート大学	2003.06.01	200名
50	チルドレンズ・エドゥケーション アンド・ウェルフェア・アシスタンス Children's Education and Welfare Assistance	ノートルダム・キダパワン大学	2004.06.01	150名
51	リホック・バタ・デベロップメント・センター Lihok Bata Development Center	ミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォー・コミュニティ・デベロップメント (NGO)	2006.06.01	250名

*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。 *2.センター45は2011年5月31日に支援を終了しました。

スリランカ協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数*3
4049	プッタラム・エリア Puttalam Area	チャイルド・ファンド・スリランカ	2006.10.31 (チャイルド・ファンド・ジャパンとして2007.01.25~)	1,300名
4231	ティー・プランテーション・エリア Tea Plantation Area	チャイルド・ファンド・スリランカ	2005.1.26 (チャイルド・ファンド・ジャパンとして2009.4.1~)	4,000名

*3.チャイルド定員数は、チャイルド・ファンド・ジャパン以外の支援国との合計です。

ネパール協力センター				
センター番号	協力センター名	協力センターの運営団体	支援開始日	チャイルド定員数*4
60	エデュケーション・フォー・ホープ Education for Hope	RBPW (ラメチャップ・ビジネス&プロフェッショナル・ウイメン)	2010.4.1	350名

*4.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。

支援プロジェクト 1 フィリピン 協同組合強化支援プロジェクト

支援プロジェクト1

フィリピン協同組合強化支援プロジェクト

協力団体：センター35とバグアサ協同組合
協力期間：2011年9月1日～2012年2月28日
支援対象：バグアサ協同組合の会員、預金者合計772人とその家族
報告期間：2011年9月1日から2012年2月28日
支援規模：2,527,344.20ペソ(約4,827,227円:使用レート1ペソ=1.91円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



完成式の日を迎えたバグアサ協同組合事務所

プロジェクトの背景と目的

スポンサーシップ・プログラムでは、生活改善への取り組みが継続して実施されることを目的として、地域の人々が運営する協同組合の育成を支援しています。これまでの成果として、運営管理や財政面で自立するまでに成長した組合がありますが、他方で、自前の事務所を所有することができず、より安定した組合活動を展開することが難しい組合もあります。このような状況を踏まえ、チャイルド・ファンド・ジャパンは、組織体制の確立、高い事務能力をもつスタッフ、安定した収益性、事務所建設用地を自力で確保する財政力など、いくつかの条件が揃っている組合に対し、事務所の建設費を支援することにしました。

2011年度の総括

この支援プロジェクトの初めての対象となったのは、バグアサ協同組合です。この協同組合はセンター35の活動を通して2000年に設立されて以来、着実に力をつけ、2010年にはカピタ州で活躍が認められた協同組合ベスト3の一つに選ばれました。2012年2月には事務所の完成式が開催され、バグアサ協同組合の組合員のほか、協同組合開発庁をはじめ地元行政関係者や周辺地域の他の組合代表者が集い、組合の新たな門出を祝いました。

支援プロジェクト 2 フィリピン 子どもが読書に親しむプロジェクト

支援プロジェクト2

フィリピン子どもが読書に親しむプロジェクト

協力団体：チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所、Sa Aklat Sisikat Foundation, Inc., 協力センター南部ルソンとビサヤの7カ所のセンター(10, 19, 35, 40, 24, 42, 46)
協力期間：2011年6月1日～2012年5月31日
支援対象：対象地域内の公立小学校20校の4年生担当教員、校長65人、4年生の生徒1,665人(間接受益者として、対象校の他学年の生徒6,788人と教員215人)
報告期間：2011年6月1日から2012年3月31日
支援規模：2,179,355.23ペソ(約4,162,568円:使用レート1ペソ=1.91円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



本を熱心に読む読書の時間の子どもたち

プロジェクトの背景と目的

フィリピンでは、小学校の第1学年に入学した子どもが最終学年まで残る割合は7割(世界子供白書2009)で、その背景には貧困問題があり、教育の機会を享受できない環境に暮らす子どもたちへの対応が課題となっています。また、教育予算も十分ではなく、人口増加による公立小学校の教室不足、教員の質の低下は近年大きな問題となっています。さらに、公立小学校では、4年生を境に退学する子どもの数が増加します。弟や妹の世話や家事の手伝いなど、家事労働の担い手としての役割が大きくなる一方、学校の授業についていくことが難しくなり、勉強への興味が薄れ、中退してしまう子どもたちが多くいるからです。一方で、この年代の子どもは本来、読書を楽しみ、読書を通じて知識を吸収し、考える力を育むことができる成長期にあります。

本プロジェクトは、公立小学校の教育の質を改善し、小学校の4年生に在籍する子どもを対象に、本を読む力、本から学習する力を育むことを目的として2010年度から年度ごとに対象地域を移して実施しています。

2011年度の総括

2011年度は、教員研修、絵本の配布、読書月間、学習用書籍の配布といった構成の一連の活動を行いました。各学校から、子どもたちの読解力や読む速さが向上し、読書を楽しむ習慣が付き、語彙が増え、創造力やコミュニケーション力・文章の構成力や書く力、生活態度が向上したという成果が報告されました。

支援プロジェクト 3 フィリピン パラワン少数民族生活改善プロジェクト

支援プロジェクト3

フィリピンパラワン少数民族生活改善プロジェクト

協力団体：AMP-IPM (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)
*カトリック修道会であるフィリピン・アウグスチノ宣教会が行う社会事業部門で、少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動を行う
協力期間：2009年10月1日から2012年9月30日(第3期)
支援対象：パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族450世帯
報告期間：2010年10月1日～2011年9月30日
支援規模：P 1,055,097.80ペソ(約2,015,237円:使用レート1ペソ=1.91円)
*為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



生物多様性を学ぶ研修。パラワン島は動植物、昆虫の宝庫

プロジェクトの背景と目的

少数民族パラワン族は、パラワン島外からの移住者に土地を奪われ、行政サービスが十分に行き届かない山間部に追われ、マラリアなどの感染症、栄養不良、慢性的な水不足に苦しめられてきました。本プロジェクトはパラワン族の人々の生活改善をめざし、持続的な活動に向けて能力強化を中心とした支援を実施しています。

2011年度の総括

今回は、対象地域の子どもたちや成人を対象に、以下の活動を実施しました。

- 1 6歳未満の52名を対象に幼児教室を開催し、文字や色の概念の習得、民族の価値観、子ども同士の信頼関係の形成を図りました。
- 2 補食プログラムや、保健ボランティアと母親との連携の強化により、約300名の子どもたちの疾病の早期発見、適切な治療へとつなげました。
- 3 172名が成人識字教室で学び、46人が教育省の審査を受け卒業試験に合格しました。
- 4 不法伐採を取り締まるために、先祖から受け継いだ土地の保護・資源管理に対する責任感を醸成し、特有の文化や島の生物多様性に関する理解を深めた結果、15名のパラリーガル・ボランティア(法律に関する基礎知識を備えたボランティア)が森林警備員として活動しました。
- 5 マラリア防止教育、栄養教育、マラリア感染テストによる陽性者の早期発見も継続して実施しました。
- 6 上記活動を行うために指導者研修を実施しました。

支援プロジェクト 4 ネパール 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト

協力団体：RBPW(Ramechhap Business & Professional Women)
 *ネパールの山間部ラメチャップ郡を拠点とするNGO。女性と子どもの権利推進を目標に活動を行なう。
 協力期間：2011年4月1日～2016年3月31日
 支援対象：ラメチャップ郡の3カ村の公立16校に通う生徒(約2,800名)、保護者、PTAと学校運営委員会のメンバーなど合計約8,800人
 報告期間：2011年4月1日から2012年3月31日
 支援規模：3,733,309,71ルピー(約3,695,977円:使用レート1ルピー=0.99円)
 *為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。



新築された校舎

プロジェクトの背景と目的

この地域の多くの学校は、老朽化した校舎、不足する施設、生徒の出席率と習熟度の低さという問題を抱えています。このプロジェクトでは、子どもたちが楽しく勉強できるように環境を整え、学力向上に繋がることを目的としています。

2011年度の総括

今年度は、2校で8教室の校舎建設、2校で9教室の校舎補修、1校で校庭整備を支援しました。幼稚部には、教材壁画や教材、カーベットの支援をしました。16校の学校関係者と教員が他郡の公立モデル校を視察しました。12校でPTA、保護者、生徒会なども参加して学校向上5カ年計画を見直すワークショップを行いました(政府が策定した計画で、これまでは学校運営委員長と校長の2者が作成していました)。「子どもにやさしい教授法研修」に26名の教員が参加しました。34名のボランティア教員の報酬の半額を支援し、複式学級の数を減らしました。生徒の個別ファイルの作成、学期末の成績表の配布、生徒会の設立、保護者会の開催、学校監査などを実施した学校が増えました。

支援プロジェクト 5 ネパール オカルドウンガ 地域病院プロジェクト

協力団体：Okhaldhunga Community Hospital
 *ネパールで活動する国際NGOであるUMN(United Mission to Nepal)の管轄下の病院の一つとして、山間部オカルドウンガ郡で病院運営と地域保健活動を行う。
 協力期間：1996年7月中旬～2011年7月中旬
 支援対象：オカルドウンガ郡(人口約17万6千人、全56カ村)と近隣5郡の住民
 報告期間：2010年7月中旬～2011年7月中旬
 支援規模：537,840ルピー(約532,462円:使用レート 1ルピー=0.99円)
 *為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

地域病院を通して、山岳地域の地域住民の総合的な健康状態の改善を目指すものです。

2011年度の総括

病院収入に占める診療報酬の割合は、前年度比5ポイント減少の59%となりましたが、病院収入と診療報酬は金額では昨年度より増加しました。地域保健事業では、1カ村の保健所建設を支援しました。2011年6月に、支援終了の式典を行い、郡行政事務所代表などから長年の支援に対する謝辞が寄せられました。



村にできた保健所の完成式典

支援プロジェクト 6 ネパール 故細野雅央様からのご寄付による教育支援プロジェクト

協力団体：Aasaman Nepal
 *ネパールの平野部ダヌンジャ郡を拠点とするNGO。子どもの権利推進を目標に、教育事業や児童労働撲滅を目指す活動を行う。
 協力期間：2008年9月1日～2011年8月31日
 支援対象：ネパール東南部マホタリ郡およびダヌンジャ郡の公立校5校(生徒総数約2,200名)と学校区に居住する5歳から14歳の未就学の子ども約500名
 報告期間：2011年4月1日から2011年8月31日
 支援規模：956,934.60ルピー(約947,365円:使用レート 1ルピー=0.99円)
 *為替レートが送金時期によって異なるため、日本の会計報告と必ずしも一致しません。

プロジェクトの背景と目的

より多くの子どもが年間を通して安心して教育を受けられることを目的としています。

2011年度の総括

3年間に5～14歳の子どもの就学率が73%から91%に、一教室の平均生徒数が120名から71名に、そして一教師あたりの平均生徒数が90名から73名に改善され、事業は終了しました。



新しくできた校舎で勉強する子どもたち

緊急・復興支援プロジェクト 1 フィリピン 台風緊急支援プロジェクト

協力団体：①センター48 ②ミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォア・コミュニティ・エンパワメント
 協力期間：2011年12月19日～2012年5月31日
 支援対象：①62世帯 ②161世帯
 報告期間：2011年12月19日～2012年3月31日
 支援規模：①919,128.48ペソ(約1,755,535円:1ペソ=1.91円) ②218,380.36ペソ(約417,106円)



現地調査に訪れた小林事務局長に被災状況を話すチャイルドの家族

プロジェクトの背景と目的

2011年12月16日から18日にかけてミンダナオ島を襲った台風21号(国際名Washi:現地名Sendong)による地滑りや洪水で甚大な被害を受けたカガヤン・デ・オロ市とイリガン市は、それぞれスポンサーシップの現在の支援地域と2004年に支援を終了した元支援地域です。カガヤン・デ・オロ市では、支援を受けていた小学1年生のチャイルド1名の他、4歳の男の子を含む7名が、2012年5月現在、依然として行方不明です。イリガン市では、元支援地域がほぼ完全に流され、元チャイルドを含む103名が命を奪われました。

2011年度の総括

チャイルド・ファンド・ジャパンは、行政・他支援団体と連携しながら、被災当初の食糧配布支援から負傷者の医療費支援、学用品の支給、家屋修復費の支援(イリガン市については、家屋修復と教育支援は2012年度に開始)をおこなっています。元支援地域の住民からは、「支援終了から何年もたったのに、覚えていてくれてありがとう」と、支援者の皆様への感謝の言葉が伝えられました。

支援プロジェクト4
 ネパール 子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
 支援プロジェクト5
 ネパール オカルドウンガ地域病院プロジェクト
 支援プロジェクト6
 ネパール 故細野雅央様からのご寄付による教育支援プロジェクト

緊急・復興支援プロジェクト1
 フィリピン 台風緊急支援プロジェクト

国内の活動

イベント・キャンペーン

支援を充実するため、キャンペーンを実施しました。また、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動の輪を広げるため、様々なイベント・キャンペーンに参加しました。

■ 青山ファミリーフェア(5月)

★「子どもが読書に親しむプロジェクト」募金 キャンペーン(7月)

■ どこでもピースカフェ!(バルシステム東京) (8月、3月)

■ チャリティ古本市2011(9月)

■ 青山学院同窓祭(9月)

■ グローバルフェスタJAPAN2011(10月)

★チャイルド・ファンド・ジャパン設立5周年記念 ヴァイオリン・歌・ピアノとハンドベルによる チャリティコンサート(10月)

■ としまふれあいバザール(11月)

■ 第7回スマイリング・パートナーズ・ チャリティゴルフ大会(11月)

★「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」 募金キャンペーン(12月)

★杉並区民の手でネパールに学校を!キャンペーン 第2弾(12月-2月)

■ 第3回ゴスペル・フォー・ピース(3月)

■ 世界一大きな授業(3月)

■ MDGs2015キャンペーン(通年)

■ 国連子どもの権利委員会に対する通報 (申し立て)制度を活かそう!キャンペーン(通年)

■ 性的暴力から子どもを守るジャパン・ キャンペーン(通年)

★はチャイルド・ファンド・ジャパンが実施したものです。

■ 第7回スマイリング・パートナーズ・ チャリティゴルフ大会

2011年11月30日、スポンサーの篠塚和典さんが代表をしている、スマイリング・パートナーズ・チャリティゴルフ実行委員会主催のチャリティゴルフ大会が開かれ、246名の方が参加しました。このチャリティゴルフ大会で集まったご寄付を通して、フィリピンやネパールに住む25名のチャイルドたちを引き続きご支援いただきました。



チャリティゴルフ大会優勝者への賞品の授与。左から、司会の徳光和夫さん、優勝者、デルタ航空の海貝哲生さん、篠塚和典さん。

★杉並区民の手でネパールに学校を! キャンペーン第2弾



杉並区民の手でネパールに学校を!キャンペーン第2弾では、在日本ネパール国大使館特命全権大使マダン・クマル・バットライ閣下(左端)、杉並区長田中良氏(右端)をお招きして、深町正信理事長(右から2番目)も参加したセレモニーを開催しました(2012年3月23日)。

NGO・政府機関との連携

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは、他のNGOや政府機関と協力しています。

・GII/IDI(保健分野NGOネットワーク)
・JANIC(国際協力NGOセンター)
・JNNE(教育協力NGOネットワーク)
・NGO・労働組合国際協働フォーラム

・子どもの権利条約NGOグループ
・認定NPO法人ネットワーク
・ネパールに学校を建てる会 (五十音順)

企業・団体からのご協力

企業や団体の皆様には、スポンサーシップ・プログラムでのご支援、支援プロジェクトへのご寄付、書き損じハガキのご協力、専門技術でのサポート、キャンペーンの後援など、たくさんのご支援をいただいています。2011年度は、B'zや高嶋ちさ子さんはじめ、アーティストの方々が東日本大震災復興支援にご協力してくださいました。また、GMOくまポン株式会社は「チャリティクーポン」でのご支援という、ユニークな方法でご協力くださいました。

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・GMOインターネット 株式会社 ・GMOくまポン株式会社 ・GMOメディア 株式会社 ・GMOメディアホールディングス株式会社 ・JX日鉱日石エネルギー株式会社 ・J-TWO Co.,Ltd.(高嶋ちさ子) ・株式会社KAI CORPORATION ・NGOゴスペル広場 ・SHO-BI株式会社 ・旭硝子株式会社 ・アメリカン・エクスプレス・
インターナショナル,Inc ・株式会社イミュール ・沖電気工業株式会社「OKI愛の
100円募金」 ・株式会社カカコム | <ul style="list-style-type: none"> ・キーコーヒー株式会社 ・キックマン株式会社 ・株式会社サンメディカル ・三裕通商株式会社 ・サンライフ株式会社 ・聖徳ビル企画株式会社 ・ジョンソン・アンド・ジョンソン
社会貢献委員会 ・NPO法人セカンドブックアーチ ・ソニー株式会社 ・デルタ航空株式会社 ・株式会社東京損害生命保険 ・株式会社東横イン(全店舗) ・株式会社東横イン電建 ・株式会社虎屋 ・株式会社ドリーム・チーム | <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社ドリームデン ・日本たばこ産業株式会社 ・株式会社バーミリオン(B'z) ・株式会社ビーイング ・ファイザー株式会社 ・株式会社フォルツァ・グラフィコ ・富士ゼロックス株式会社 ・富士ゼロックス株式会社
端数倶楽部 ・株式会社ホテル高輪 ・みずほ社会貢献ファンド事務局 ・三井住友海上火災保険株式会社 ・三井住友銀行ボランティア基金
(敬称略、五十音順) <p>この他多くの企業・団体からご支援を
いただきました。</p> |
|---|---|---|

■デルタ航空によるご協力

デルタ航空の「スカイウィッシュ・アジア」は、貯まったマイルを寄付するプログラムです。ご寄付いただいたマイルは、航空券に換え、スタッフが支援活動のため出張する際に活用しています。デルタ航空をご利用の際は是非ご協力ください！
デルタ航空の日本語ホームページ(マイル寄付 スカイウィッシュ・アジア、http://ja.delta.com/skymiles/use_miles/donate_miles/skywish_asia/)または、チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページ(<http://www.childfund.or.jp/?cat=17>)をご覧ください。



■カカコムによるご協力

クリック募金は、インターネット上でクリックするだけで募金ができる仕組みです。1クリックが1円の寄付となり、株式会社カカコムよりクリック数分の寄付がチャイルド・ファンド・ジャパンへ送金されます。是非、毎日の習慣としてご協力ください！詳しくはチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページ(<http://www.childfund.or.jp/?cat=8>)をご覧ください。



その他のご協力

■書き損じハガキ・未使用切手

個人や団体862名の方々から、金額に換算して2,825,377円分ものご支援をいただき、フィリピンで実施する「子どもが読書に親しむプロジェクト」の支援に役立てることができました。書き損じハガキ、未使用切手は年間をととして集めています。

■ボランティア

ボランティア制度の導入から8年が経ち、来所ボランティア、在宅ボランティア、イベントボランティアなど多くの方々からご協力いただいています。チャイルドの手紙や「成長記録」の翻訳、寄付されたハガキや切手の仕訳、広報物の発送作業、イベント実施など多岐にわたって活動を支えてくださいました。

TwitterとFacebookを始めました！

公式ホームページに加え、Twitter、Facebookでの情報発信を開始いたしました。団体に関する情報をタイムリーにご覧いただけます。

Twitter:<http://twitter.com/#!/ChildFundJapan>

Facebook:<http://www.facebook.com/ChildFundJapan>

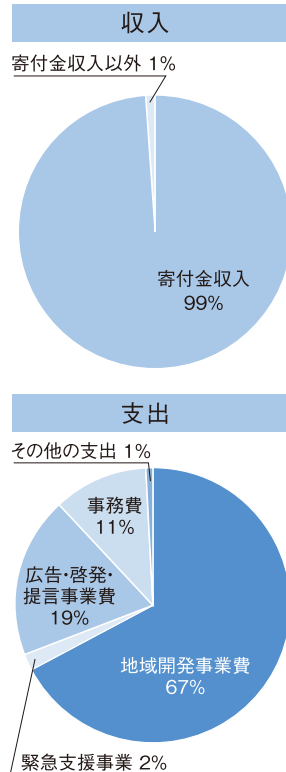
2011年度 会計報告

書式第12号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日 (単位:円)

[収入の部]		
会費・入会金収入	192,000	
基本財産運用収入	577,436	
寄付金収入	259,952,036	
特定預金取崩収入	960,000	
その他収入	238,478	
[収入の部] 合計		261,919,950
[支出の部]		
【事業費】		
地域開発事業費	166,720,846	
緊急支援事業	5,400,000	
広報・啓発・提言事業費	47,657,168	
【事業費】合計		219,778,014
【事務費】		
【事務人件費】	14,339,014	
【事務管理費】	13,748,038	
【事務費】合計		28,087,052
【その他支出(預金繰入等)】		
特定預金繰入	779,914	
為替差損	2,236,585	
その他支出	114,718	
【その他支出(預金繰入等)】合計		3,131,217
[支出の部] 合計		250,996,283
当期収支差額		10,923,667
前期繰越収支差額		45,689,861
次期繰越収支差額		56,613,528



書式第11号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

2012年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目		科目	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	41,414,453	未払金	513,898
仮払金	145,207	預り金	1,267,621
前払費用	217,282	【流動負債】計	1,781,519
貯蔵品	906,900	【固定負債】	
未収金	15,697,445	退職給与引当金	3,498,842
その他流動資産	13,760	【固定負債】計	3,498,842
【流動資産】計	58,395,047	負債の部合計	5,280,361
		正味財産の部	
【固定資産】		(うち基本金)	
土地	16,140,000	土地	(16,140,000)
建物	98,983,086	建物	(98,983,086)
固定資産物品	1,175,754	研修基金	(83,460,000)
研修基金	83,460,000	子どもと地球を守る基金	(257,850,211)
子どもと地球を守る基金	257,850,211	計	456,433,297
援助準備積立金預金	49,540,000		
緊急援助特定預金	30,000,000	(うち当期正味財産増加額)	159,708,677
細野子ども成長支援ファンド*	18,626,569		
修繕積立金預金	4,500,000		
退職給与積立金預金	2,751,668	正味財産の部合計	616,141,974
【固定資産】計	563,027,288		
資産の部合計	621,422,335	負債・正味財産の部合計	621,422,335

【貸借対照表の注記】

1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却方法
見積耐用年数に基づいて定額法で計算しています。
- (2) 引当金の計上基準
・退職給与引当金
職員の退職金に備えるため、期末要支給額の全額を計上しています。
- (3) 資金の範囲
流動資産、流動負債を含めています。
- (4) 特別会計の設置
東日本大震災緊急・復興支援にかかわる事業に関して特別会計を設置しています。

2. 固定資産の取得原価、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりです。

(単位:円)

	取得原価	減価償却累計額	当期末残高
建物	113,252,955	14,269,869	98,983,086
固定資産物品	6,208,471	5,032,717	1,175,754
合計	119,461,426	19,302,586	100,158,840

子どもと地球を守る基金元本のうち11,758,273円は小松文子記念基金
子どもと地球を守る基金元本のうち15,470,100円は尾崎直道基金
子どもと地球を守る基金元本のうち10,000,000円は磯部陽子記念基金

子どもと地球を守る基金元本のうち80,000,000円は松本記念基金
子どもと地球を守る基金元本のうち12,421,838円は妹尾誠子記念基金

チャイルド・ファンド・ジャパンでは相続財産のご寄付や遺贈に関するご相談をお受けしております。 連絡先:募金グループ

特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日 (単位:円)

【増加の部】		
【資産増加額】		
当期収支差額	10,923,667	
特定預金繰入額	779,914	
固定資産物品購入額	143,451	
【資産増加額】合計		11,847,032
【負債減少額】		
退職給与引当金取崩	3,069,875	
【負債減少額】合計		3,069,875
【増加の部】合計		14,916,907
【減少の部】		
【資産減少額】		
固定資産減価償却額	2,505,687	
特定預金減少額	36,668,757	
為替換算調整額	58,557	
その他資産減少額	1,146,759	
【資産減少額】合計		40,379,760
【負債増加額】		
退職給与引当金繰入額	983,413	
【負債増加額】合計		983,413
【減少の部】合計		41,363,173
【期末正味財産合計額】		
当期正味財産増加額		△ 26,446,266
前期繰越正味財産額		642,588,240
当期正味財産合計		616,141,974

東日本大震災緊急・復興支援特別会計

書式第12号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

東日本大震災緊急・復興支援特別会計

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日 (単位:円)

[収入の部]		
【特定預金取崩収入】		
東日本大震災特定預金取崩収入	36,668,757	
【特定預金取崩収入】合計		36,668,757
【東日本大震災支援金収入】		
大震災海外助成金収入	130,304,511	
大震災寄付金収入	66,694,449	
【東日本大震災支援金収入】合計		196,998,960
[収入の部]合計		233,667,717
[支出の部]		
【事業費】	110,012,698	
【管理費】	11,001,270	
[支出の部]合計		121,013,968
当期収支差額		112,653,749
前期繰越収支差額		0
次期繰越収支差額		112,653,749

書式第11号(法第28条関係)

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

東日本大震災緊急・復興支援特別会計

2012年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目		科目	
【流動資産】		【流動負債】	
現金預金	124,325,736	未払金	13,271,967
仮払金	355,000	預り金	237,626
前払費用	109,950	【流動負債】計	13,509,593
貯蔵品	1,000,730	負債の部合計	13,509,593
未収金	371,926		
【流動資産】合計	126,163,342		
【固定資産】		正味財産の部	
保証金(拠点敷金)	72,000	【正味財産】計	112,725,749
【固定資産】合計	72,000		
		正味財産の部合計	112,725,749
資産の部合計	126,235,342	負債・正味財産の部合計	126,235,342

東日本大震災緊急・復興支援にかかわる事業に関して特別会計を設置している。

【貸借対照表の注記】

1. 重要な会計方針 (1) 資金の範囲 流動資産、流動負債を含めています。

特定非営利活動に係る事業会計正味財産増減計算書

東日本大震災緊急・復興支援特別会計

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日 (単位:円)

【増加の部】		
【資産増加額】		
当期収支差額	112,653,749	
東日本大震災特定預金増加額	36,668,757	
その他資産増加額	72,000	
【資産増加額】合計		149,394,506
【負債減少額】合計		0
【増加の部】合計		149,394,506
【減少の部】		
【資産減少額】		
東日本大震災特定預金減少額	36,668,757	
【資産減少額】合計		36,668,757
【負債増加額】合計		0
【減少の部】合計		36,668,757
【期末正味財産合計額】		
当期正味財産増加額		112,725,749
前期繰越正味財産額		0
当期正味財産合計		112,725,749

チャイルド・ファンド・ジャパンの 会計監査について

チャイルド・ファンド・ジャパンでは法人の監事1名が内部監査を行うとともに、監査法人による外部監査を受けています。

監査報告書

協和監査法人から提出された監査報告書です。



東日本大震災緊急・復興支援事業

協力期間：2011年3月15日～2013年3月31日
 支援対象：福島県、宮城県、岩手県の被災地域に暮らす子ども、地域住民と、被災地域で支援活動を行う方々
 報告期間：2011年4月1日～2012年3月31日
 支援規模：121,013,968円

1 経緯

2011年3月11日の東日本大震災発生直後から、チャイルド・ファンド・ジャパンのもとに、国内支援者の方々、チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟団体、そしてフィリピンとネパールの支援センターから緊急支援の申し入れが相次いで届きました。チャイルド・ファンド・ジャパンは寄せられた期待に応え、団体のビジョン・ミッションに基づき、一人でも多くの子どもの権利を守るために、緊急支援の実施を決定しました。

2 活動概要

2011年度は、震災当初2カ月の手さぐり状態で支援活動を進めた緊急期から復興期に入り、岩手県大船渡市に活動を徐々に集約し、2012年1月に「大船渡市復興支援プログラム」を実施する体制が確立しました。大船渡市に根付いた活動に至るまで、実に多くの方々からの協力をいただいた1年間でした。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、当初は地域を特定することなく活動に着手し、5月までに以下の6分野の活動を実施する方針が固まりました。

- 1 緊急支援物資の提供
- 2 We are with you! ～あなたはひとりじゃない～
- 3 子どものこころのケアの手引き作成・配布
- 4 子どものこころのケアのワークショップ・研修
- 5 対人援助者のためのグリーフワークプログラム
- 6 岩手県大船渡市復興支援プログラム

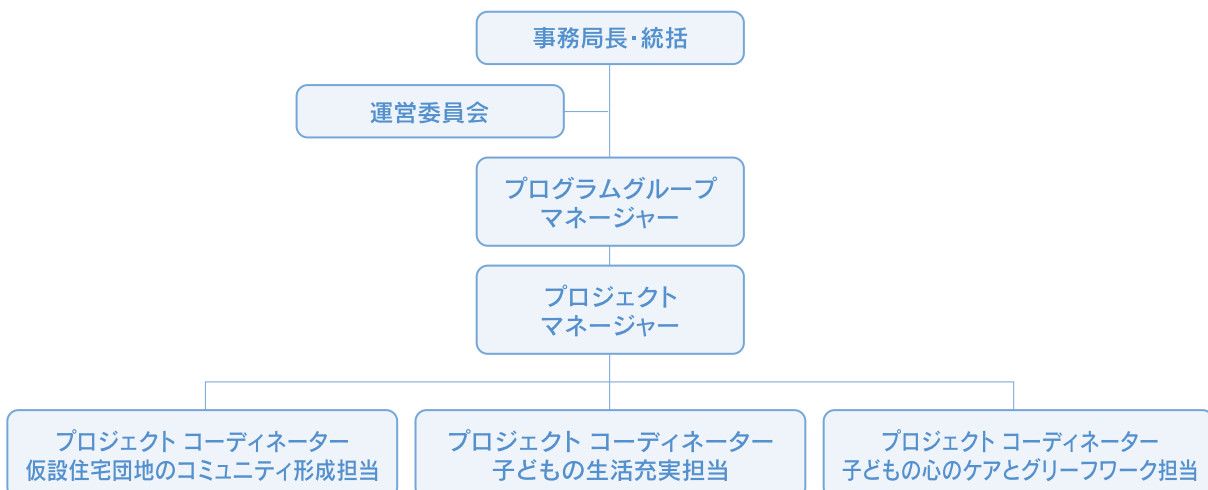
しかし、被災地域ごとに刻々と変わる状況を的確に把握し、地域固有のニーズにより効果的に対応できるよう、活動地域を限定することとしました。2011年の9月頃から岩手県大船渡市に活動を集約する体制を徐々に整備し、2012年1月以降は「大船渡市復興支援プログラム」として以下の3分野のプロジェクトからなる活動を実施しています。

- ① 仮設住宅団地のコミュニティ形成
 - ② 子どもの生活充実
 - ③ 子どものこころのケアとグリーフワーク
- 各分野の活動は次ページ以降のとおりです。

3 実施体制

● スタッフの配置

2011年4月よりプロジェクト・マネージャーが緊急・復興支援事業の専任スタッフとして配置されました。その後、3名のプロジェクト・コーディネーターが加わり、2012年1月に以下の実施体制が整いました。また、2011年7月と8月から国際協力機構（JICA）の「帰国隊員等NGO活動支援制度」を通じ、帰国隊員2名をそれぞれ6ヵ月間受け入れ、本部と大船渡に1名ずつ配置したほか、日本基督教団北海教区派遣ボランティア1名、アルバイト契約による短期業務従事者1名を配置することにより活動を進めました。



● 拠点の設置

2011年5月に岩手県遠野市に拠点を設置し、大船渡市での活動を開始しました。11月、降雪期を迎えるにあたり、拠点を遠野市から大船渡市に移転しました。より地域に根差した活動のための環境を整え、活動を行っています。

4 今後の方針

チャイルド・ファンド・ジャパンとしての復興支援活動は、大船渡市を中心に2012年度末まで継続し、2013年3月をもって終了を予定しています。

5 活動内容

各分野の活動は以下のとおりです。

2011年3月～2011年12月の活動

1 緊急支援物資の提供

実施期間 2011年3月15日 ▶ 4月15日 2011年度支出実績 P18 表 ①参照

福島県南相馬市、宮城県仙台市、石巻市、名取市の各避難所の支援物資受入集積所を対象に、食糧、日用品、生鮮野菜を合計5トン、計5回搬送しました。



緊急支援物資の搬送トラック

2 子どものこころのケアの手引き作成・配布

実施期間 2011年3月21日 ▶ 継続中 2011年度支出実績 P18 表 ②参照

フィリピンやネパールの支援活動では、地域ごとのニーズに合致した専門性や経験を有する他団体との協働を通じて、常により効果的な支援を目指してきました。この緊急・復興支援事業においても、子どものこころのケアの分野の専門性を持つルーテル学院大学（東京都三鷹市）と協働し、家庭や学校、地域で子どもたちをサポートする大人のために、「被災後の子どものこころのケアの手引き」を作成し、震災から1か月後の4月11日から配布を開始しました。また、被災地で生活し、主に外国語を話す方々やその子どもたちを支援するため、英語、中国語（北京語）、ハンゲル、タガログ語の翻訳版を作成し、9月末から配布を開始しました。2012年3月末までに、日本語15,365冊、英語639冊、中国語366冊、ハンゲル346冊、タガログ語333冊を配布しました。



子どものこころのケアの手引き

3 We are with you! ～あなたはひとりじゃない～

実施期間 2011年4月1日 ▶ 8月31日 2011年度支出実績 P18 表 ③参照

被災した地域の子どもたちに、日本、フィリピン、ネパールの子どもたちが描いた励ましのメッセージと文房具セットなどを届けました。送る側と受け取る側、双方の子どもたちが「人と人のつながり」を感じ、子どもたちが元気に復興の一步を踏み出してもらうことを目的に実施し、岩手県の小・中学校99校の児童16,000人、大船渡市および周辺のフィリピン人と日本人を両親に持つ子ども30人、南相馬市の小学校の児童1,504人が対象となりました。



励ましのメッセージを受け取った被災地の小学生

4 子どものこころのケアのワークショップ・研修

実施期間 2011年6月 ▶ 継続中 2011年度支出実績 P18 表 ④参照

「被災後の子どものこころのケアの手引き」を手に取った方々からワークショップ開催を希望する声が聞かれるようになりました。また、継続的な取組を要する子どもの心のケアについては、将来的に、子どもたちと継続的にかかわる人々・団体を支援する必要があるとの認識のもと、子どもに接する大人が、子どものこころの状態への理解を深め、有効なこころのケアを行うことができるよう支援することを目的として、この活動を開始しました。

ルーテル学院大学との協働により、6月から11月までに宮城県、岩手県で幼稚園の先生や保育士、キャンプリーダー、外国人の母親などが参加する、ワークショップ・研修会を6回実施しました。



ワークショップの様子

5 対人援助者のためのグリーンワークプログラム

実施期間 2011年7月 ● 継続中 2011年度支出実績 P18 表 ④参照

被災地域で中長期的に対人支援を実施している方々は、被災者の体験を数多く見聞きし、対応する中で、自らの存在価値を失うなどの精神的・心理的喪失などを体験する場合があります。このような体験をした支援者に対して適宜、支援をすることが必要となるとの認識のもと、ルーテル学院大学大学院附属包括的臨床死生学研究所との協働により、対人支援者の2次の被害を防止することを目的としてグリーンワーク(悲嘆作業)*、を開始しました。この活動は、石巻福祉避難所、東京武蔵野赤十字病院、京都社会福祉協会の社会福祉士をはじめとする対人支援者のべ43人を対象に、7月から10月までに7回実施しました。また、11月は、岩手県大船渡市復興支援プログラムの一環として、大船渡市内の仮設住宅入居者約2,800人を支援するために配置されている生活支援相談員から8人の参加を得て実施しました。

*人は物的・心的喪失などを体験した後、自分の感情や反応のバランスを崩すことがあるのはごく自然のことであり、これに向き合って自分の存在実感を取り戻す作業を意味する。



プログラムの様子

6 岩手県大船渡市復興支援プログラム

実施期間 2011年5月 ● 継続中 2011年度支出実績 P18 表 ⑤、⑥参照

岩手県大船渡市での活動は避難所の状況調査から始まりました。

5月から9月初旬にかけて、避難所36ヵ所、仮設住宅団地6ヵ所で聞き取り調査を実施する過程で、仮設住宅団地のコミュニティ形成のニーズが確認されたことを受け、ベンチ(272脚)・掲示板などの製作、持ち寄り食事会、夏祭りや納涼会の実施・実施支援、干し柿づくり、仮設住宅団地集会所20ヵ所の入口軒拡張工事など、コミュニティ形成を目的とした活動を行いました。これらの活動の多くは、酪農学園大学、青山学院大学などのボランティアの参加を得て進めることができました。

また、子どもたちの日常生活を支援するために、大船渡市を含む岩手県内公立小中学校43校へ扇風機684台提供、大船渡市内公立中学校8校の野球部を対象とした元読売巨人軍の篠塚和典氏による野球教室の開催、学童保育支援や学習支援、大船渡市他岩手県内小中学校の中から要請のあった15校の遠足・修学旅行実施支援を実施しました。



津波に流された大船渡駅の看板

2012年1月～継続中の活動(「岩手県大船渡市復興支援プログラム」として実施) 支出実績 P18 表1 ⑦参照

1 仮設住宅団地のコミュニティ形成

5月からの活動を継続し、学生ボランティアの参加を得ながら、2012年3月までに仮設住宅団地のコミュニティ作りと自立を目的とした以下の活動を実施しました。

- 仮設住宅団地のコミュニティ・ファーム整備
- 仮設住宅団地の自治会形成支援
- 地域NPO(2団体)の活動強化支援



コミュニティ・ファームで作業を終えた仮設住宅団地の方々と学生ボランティア

2 子どもの生活充実

子どもの日常生活を支援するために、以下の活動を実施しました。

- 子どものためのイベント
(冬の朗読会・新春書初め大会・節分豆まき、子どもたちの声をFMラジオを通じて発信するプロジェクトの協働)
- 大船渡市内小中学校全22校を対象とした卒業アルバム製作
- 越喜来仮設保育室建設
- 大船渡小学校1階設備



新しい仮設保育室で給食を待つ子どもたち

③ 子どものこころのケアとグリーフワーク

私立大船渡保育園(保育園児180名、保育士32名)を中心に、大船渡市保育会に所属する保育園9園の保育士および保護者を対象として、継続的な子どものこころのケアの相談会、講習を11月から開始し、3月までに4回実施しました。

また、大船渡市内の仮設住宅団地入居者約2,800人を支援するために配置されている生活支援相談員を対象とした職業的喪失へのサポートを11月に実施しました。



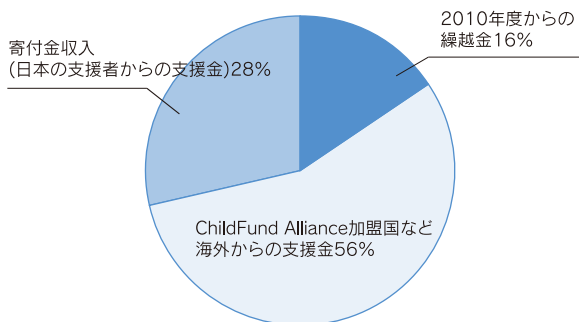
グリーフワーク・プログラムに参加して、チャイルド・ファンド・ジャパンのボランティアの方が手作りした「なぐさめのハート」を選ぶ生活支援相談員の方々

2011年度東日本大震災緊急・復興支援特別会計(2011年度より特別会計設置)

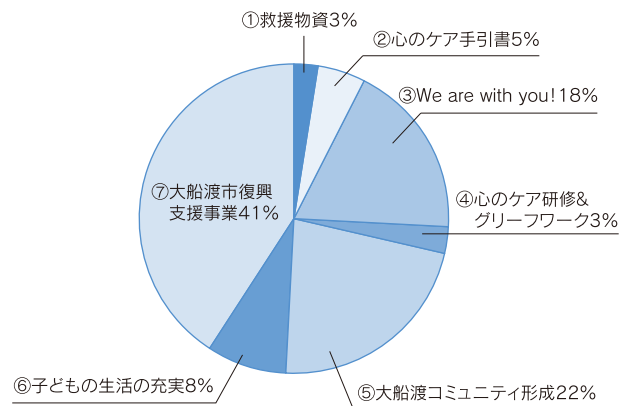
表

科 目	2011年4月1日から2011年12月31日まで							2012年 1月1日から 2012年3月 31日まで	2011 4月1日から 2012年3月 31日まで
	①救援物資	②心のケア 手引書	③We are with you!	④心のケア 研修& グリーフワーク	⑤大船渡 コミュニティ 形成	⑥子どもの 生活の充実	小 計	⑦大船渡市復 興支援事業	合 計
I 収入の部									233,667,717
東日本大震災特定預金取崩収入 (2010年度からの繰越金)									36,668,757
海外助成金収入 (ChildFund Alliance加盟国など海外からの支援金)									130,304,511
寄付金収入(日本の支援者からの支援金)									66,694,449
II 支出の部	3,073,380	6,160,035	22,174,906	3,540,259	26,701,991	10,212,538	71,863,109	49,150,859	121,013,968
緊急支援事業費	2,793,982	5,600,032	20,159,006	3,218,417	24,274,537	9,284,125	65,330,099	44,682,599	110,012,698
緊急支援管理費	279,398	560,003	2,015,900	321,842	2,427,454	928,413	6,533,010	4,468,260	11,001,270
III 次期繰越収支差額 (2012年度の支援活動費になります)									112,653,749
前期繰越収支差額									0
当期収支差額									112,653,749

■ 東日本大震災緊急・復興支援 収入割合

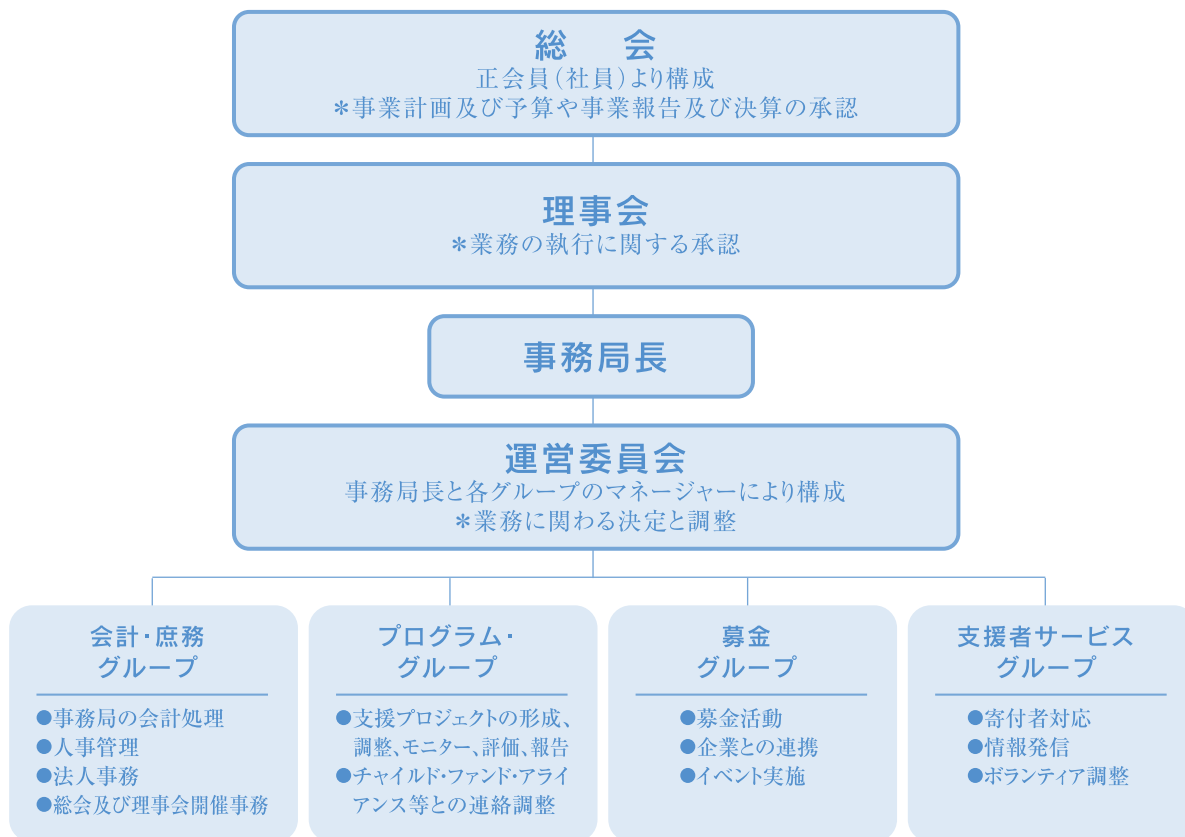


■ 東日本大震災緊急・復興支援 支援活動別支出割合



チャイルド・ファンド・ジャパン組織図 / 役員名簿

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン



【理事長】 深町 正信 (学校法人青山学院名誉院長・社会福祉法人基督教児童福祉会理事長・学校法人クラーク学園理事長)

【理事】 長山 信夫 (日本基督教団銀座教会主任牧師)
 武藤 富子 (特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン支援者代表)
 原島 博 (学校法人ルーテル学院ルーテル学院大学准教授)
 小林 毅 (特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン事務局長)

【監事】 奥澤 行雄 (奥澤行雄税理士事務所所長)

2012年3月31日現在

チャイルド・ファンド・ジャパン37年の歩み

～支援される国から支援する国へと行われた「愛のバトンタッチ」～

- 1945年 第二次世界大戦終了
- 1948年 キリスト教児童基金(CCF)が日本の戦災孤児へ支援をはじめ
- 1952年 CCFの日本事務所として、社会福祉法人基督教児童福祉会(CCWA)設立
- 1974年 日本が経済成長を遂げてCCFの支援が終了
- 1975年 CCWAは国際精神里親運動部を創設しフィリピンでの支援を開始
- 1991年 東京弁護士会人権賞受賞
- 1995年 ネパールで保健事業の支援を開始
- 2001年 全国社会福祉協議会会長特別表彰受賞
- 2005年 CCWA国際精神里親運動部は法人変更により特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンとして活動を開始
- 2006年 外務大臣表彰受賞
- 2006年 スリランカでスポンサーシップ・プログラムを開始
- 2009年 国税庁長官より「認定NPO法人」に認定される
- 2010年 ネパールでスポンサーシップ・プログラムを開始
- 2011年 東日本大震災緊急・復興支援事業を開始

アカウンタビリティ・セルフチェックについて

チャイルド・ファンド・ジャパンは、2009年12月、「アカウンタビリティ・セルフチェック(ASC)」に取り組みました。ASCは、NGOが組織運営、事業実施、会計、情報公開という4分野で組織の自己診断を行い、組織強化を目指す目的で、チャイルド・ファンド・ジャパンも加盟するNGOのネットワーク団体、国際協力NGOセンター(JANIC)により開発されたものです。

右は、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック2008」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野について、チャイルド・ファンド・ジャパンが適切に自己審査をしたので、ウェブサイトや年次報告書などで使用を許されています。チャイルド・ファンド・ジャパンのASC実施結果は、チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページよりご覧いただけます。
<http://www.childfund.or.jp/?p=268>



私たちは、皆様からの信頼に応える団体として、引き続き自らを高める努力を継続していきます。

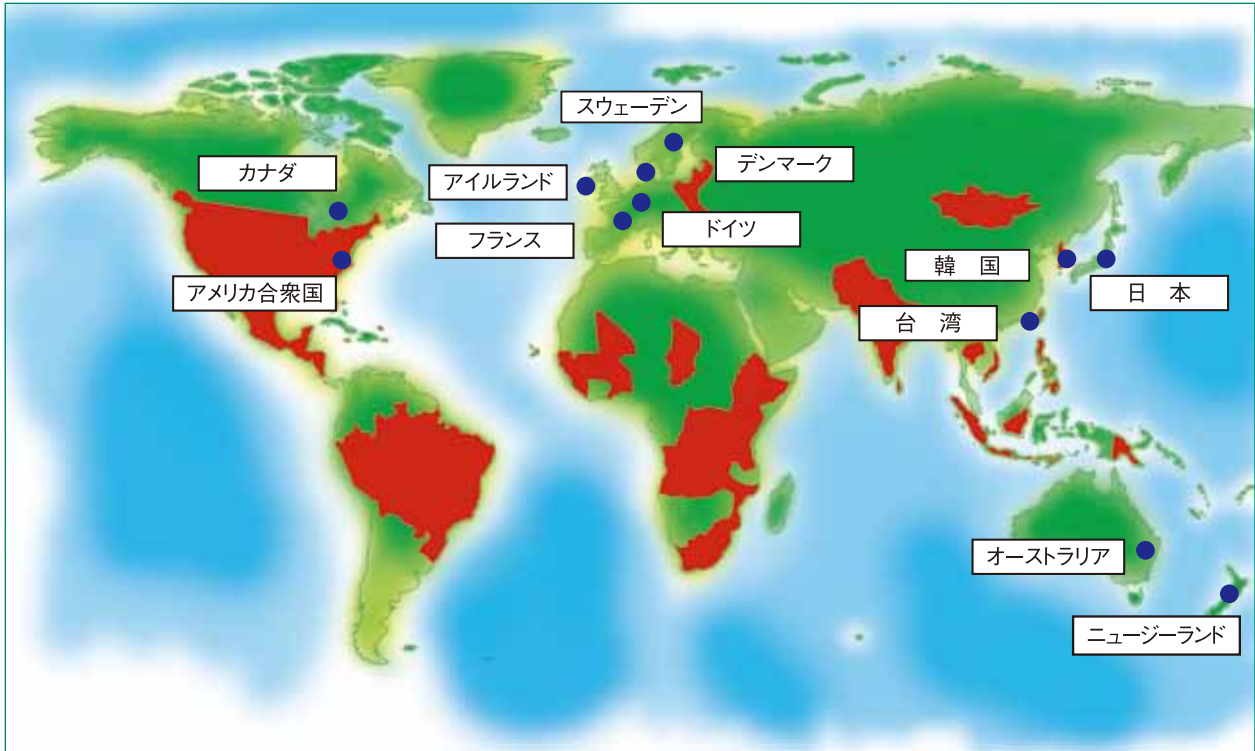
チャイルド・ファンド・アライアンスについて

チャイルド・ファンド・アライアンスは、人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ活動を行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

<http://www.childfundalliance.org/>

認証について

チャイルド・ファンド・アライアンスは、プログラム、財務管理、募金、組織運営の4分野で評価指標を定めており、加盟団体は全ての分野で最高水準を保つことが求められています。チャイルド・ファンド・ジャパンはアライアンスの審査を受け、2010年5月、認証 (Accredit) されました。



- チャイルド・ファンド・アライアンスの加盟国
- チャイルド・ファンド・アライアンスの支援地域

特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 2011年度年次報告書

理事長 深町 正信
 事務局長 小林 毅
 〒167-0041
 東京都杉並区善福寺2-17-5
 TEL 03-3399-8123
 FAX 03-3399-0730
 E-mail childfund@childfund.or.jp
 URL <http://www.childfund.or.jp>
 郵便振替口座 00170-8-196462
 加入者名 特定非営利活動法人
 チャイルド・ファンド・ジャパン
 銀行振込口座 三井住友銀行西荻窪支店
 普通預金口座 0920355
 口座名 特定非営利活動法人
 チャイルド・ファンド・ジャパン

あなたとつくる子どもの笑顔・希望・未来 チャイルドのスポンサーを募集中です

- スポンサー寄付金は月々4,000円です。
- 支援期間はご自由に決めていただけます。
- ご質問はお気軽に:03-3399-8123

